

気の緩みに注意

土幌町建協が大会 労災対策周知

【帯広】土幌町建設業協会は26日、町総合研修センターで安全大会を開いた。会員各社から60人が参加。講話などで労災対策を学び、意識を高めた。

あいさつで加藤邦彦会長は「大丈夫だろうという考え方は良くない。一人の気の緩みが大きな事故を引き起こす。加藤会長は気を引き締めるよう求めた。」



態を招く」と強調した。注意してと呼び掛けた。が発生したとし、注意を来賓の亀野倫生副町長は「これから夏本番を迎え、過酷な労働環境となる傾向を説明。2年連続で交通事故防止を講話した。ハチ刺されによる死亡事故」

無災害へ決意新たに

土幌建協 安全大会

【帯広発】土幌町建設業協会（加藤邦彦会長）は26日、町総合研修センターで2025年度安全大会を開催した。関係者約60人が参加。労働安全衛生や交通事故防止に関する講話を通じて、ことし1年の無事故・無災害に向けて決意を新たにしました。

あいさつに立った加藤会長は「写真」は、自動車の運転について疲れや気の緩みのみならず、楽観的な「するだろう運転」の危険性を予定しているG空間EXPO2025／地理空間情報フォーラム（27日）で、

鍋岡順子署長が建設業における労働安全衛生、帯広警察署土幌駐在所の伊藤和将主任が交通事故防止について講話した。うち鍋岡署長は帯広労基署管内の前年度労働災害の傾向や事例を説明。また、死亡災害事例から安全作業の教育や設備の安全化、エビペン等応急の備え、ライフジャケットの着用、高齢者の体力に配慮した作業手順の見直しや構築などを求めた。

最後に、北斗産業㈱の相澤直己氏が安全に対する決意を表明するなど、ことし1年の無事故・無災害に向けて決意を新たにしました。

